

ナイスケアだより

第93号
令和2年2月発行

新型コロナウイルスのニュースが、毎日報道されています。日本にも感染者がでて、不安な状況が続いています。厚生労働省からは都道府県、市区町村向けに、感染症ガイドラインが示されました。

主な感染は『飛沫感染』と『接触感染』で、その対策が重要となるようです。

『飛沫感染』とは、感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、病原体の水滴が口から飛び出し、近くにいる人が吸い込んで感染することです。感染している人から2メートル離れること、感染者がマスクを着用し咳エチケットを実施すること、感染予防のマスクを着用することなどが対策として有効です。しかし、マスクの品薄も課題になっています。

『接触感染』とは、病原体のついた手やドアノブ、手すりなどに接触した手で口や鼻、眼に触り、粘膜を通して病原体が体内に侵入して感染することです。『接触感染』対策には、しっかりとした手洗いが有効です。



当たり前のことのように、マスクの着用や手洗いは感染予防の有効な手段です。感染場所がこれ以上広がらず、感染者が増えないことを祈るばかりです。

有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～雛飾り～

もうすぐ3月3日、桃の節句です。

最近では住宅事情などもあってお雛様も大分コンパクトになったようですが、現代に引き継がれる伝統行事として大切にしたいものです。

代表的な雛飾りとして、『親王飾り』、『三段飾り』、『七段飾り』がありますが、その中でも東京を中心とする『江戸雛』と関西の『京雛』で違いがあるのはご存じでしょうか。

有名なのは、親王飾りの立ち位置です。左右の位置が入れ替わるのは、明治天皇のご婚礼の様子にちなんでいるとご存じの方も多いでしょう。

もう一つ、七段飾りに限ったものですが、七段目の花嫁道具の近くに座っている『仕丁(しちょう)』、別名を『衛士(えじ)』といいますが、これらの役目に違いがあり、その持ち物も変わってきます。

[江戸雛] 天皇が外出する際の従者として、色々な雑務をこなします。

向かって右から台傘、沓台、立傘を持っています。

[京雛] 御所を掃除するための熊手、ちりとり、ほうきを持っています。

表情も泣き上戸、笑い上戸、怒り上戸と様々です。

雛飾りにも地域性や歴史があって趣深いですね。



川上 謙典